

道徳

「指導者用デジタル教材」を用いた授業展開例

小学校 第5学年 道徳科 学習指導案

北海道教育大学附属旭川小学校
教諭 成田 翔

主題名 目標に向かって進む

教材名 27 新幹線開発物語(1時間)

内容項目 A 希望と勇気、努力と強い意志

本時のねらい 多くの困難に直面しながらも、新幹線の開発を進めた三木忠直さんの思いについて話し合うことをとおして、希望をもつことの大切さを知り、困難あってもくじけずに目標に向かって努力し、物事をやりぬこうとする実践意欲と態度を育てる。

指導時期 2月ごろ

「指導者用デジタル教材」活用の意図・目的

本教材は、日本の発展を支えた「新幹線開発」という大きな挑戦を扱っており、児童にとってはスケールの大きさや困難を乗り越える姿に強い印象を与える題材である。そこで、「指導者用デジタル教材」を活用し、以下の点を重視して授業を行う。

1 自他の感じ方の可視化と共有

範読の際に児童が心に残った言葉や場面に線を引く活動を取り入れ、それをモニターに即時的に可視化することで、一人一人の感じ方を全体で共有できるようにする。これにより、児童は「自分はこの部分に感動した」と根拠をもって発言しやすくなるだけでなく、友達の視点との違いや共通点に気づくきっかけが生まれる。単に「よい」「すごい」といった表面的な感想にとどまらず、その背景にある理由や価値に目を向け、多様な思考に広げることができる。

2 人物像のリアルな理解

教材に描かれた三木忠直さんの行動や心情は、文字情報だけでは児童にとって十分にイメージできない可能性がある。そこで、「指導者用デジタル教材」の「考えるシート」や「さし絵・写真」を提示することで、登場人物の姿をより具体的に捉えられるようにする。特に困難に直面したときの葛藤や、夢の実現に向かう強い決意を、視覚的な補助をとおして理解できるようにすることをねらいとした。こうした工夫によって、児童が「自分だったらどうするか」という視点をもち、人物の生き方を自分自身の生活や将来の姿と重ねて捉えられるようになると考えた。

3 価値の共有と深化

授業の展開後半では、児童の発言を「思考ツール」の「クラゲチャート」にまとめ、意見どうしを関連づけながら整理する。これにより、一人一人の考えが学級全体に広がり、「夢や目標をもつこと」「仲間と協力すること」「困難に立ち向かうこと」などの価値が相互に関連していることに気づくことができる。こうした学習過程をとおして、三木忠直さんの努力や生き方を、単なる歴史的事実として受け止めるのではなく、自分自身のこれから目標や挑戦に結びつけて考え方を養うことにつなげられる。

本時の展開

活動内容		デジタル教材の活用
導入	<p>1. 本時で扱う価値への導入を図る。</p> <p>T：みんなは、目標に向かって努力し続けることができていますか。 C：できている。 C：できていない。</p> <p>●「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「なぜ努力し続けることは難しいのかな」などと問い合わせることをとおして、「できている」「できていない」の背景にある思いを共有し、価値への導入を図る。  <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 最初のページを開く × おわる </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> 次へ 前の続きを聞く </div>
展開	<p>2. 「新幹線開発物語」を読んで、感想を交流する。</p> <p>C：当時、時速200kmを超える新幹線を作っていてすごい！ C：三木さんは、苦しみを乗り越えて、新幹線を開発してすごい。 C：どんな困難があっても、最後まで諦めず行動していてすごい。自分にはできないと思った。 C：失敗しても諦めないで、続けることが大事なんだなと思った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教材を読む前に、「指導者用デジタル教材」の「まなびリンク」（二次元コード）から「教材の解説」を開き、教材の内容について見通しをもてるようにする。 
締め	<p>3. 目標に向かって努力し続けることの大切さについて考える。</p> <p>T：講演会で夢の超特急列車の話をして、大きな拍手をもらったとき、三木さんはどのような気持ちだったでしょう。 C：夢の超特急列車の実現がどんな意味をもっているのかを伝えることができてよかったです。 C：夢の超特急列車への実現について、世の人に興味をもってもらえてうれしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「うれしい」などの感情だけでなく、「なぜそんなにうれしかったのかな」「三木さんはうれしいという感情だけだったのかな」と問いか返すことで、ただの成功体験ではなく、過去の苦しみがあったからこそその安堵感や、未来への責任感が混じった喜びであることに気づけるようになる。 

	活動内容	デジタル教材の活用
展開	<p>T：三木さんががんばることができた理由を考えましょう。</p> <p>C：戦争当時、多くの若者が命をなくしたことへの反省の気持ちから。</p> <p>C：自分の技術を平和のために生かしたいという思いがあったから。</p> <p>C：自分たちで考えて、新しいものを創造するという精神で取り組んだから。</p> <p>C：失敗を繰り返しても、強い気持ちをもって諦めなかつたから。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「心が折れそうになったとき、どうやって『よし、もう一回がんばろう！』という気持ちをわき上がらせることができたんだろう」などと、必要に応じて問い合わせ返すことで、価値にせまっていく。 場面をイメージする際の補助として、「指導者用デジタル教材」の「考えるシート」を提示する。
	<p>4. 目標に向かって進むことの大切さについて考える。</p> <p>T：三木さんの生き方から学んだことはなんですか。</p> <p>C：新幹線をつくるのは、たくさんの失敗があつて大変だったけど、三木さんたちは諦めませんでした。だから、ぼくも難しいことや苦手なことがあっても、諦めないで挑戦したいです。</p> <p>C：三木さんには「速くて安全な列車を作つて、みんなを幸せにしたい」という強い夢があつたから、大変なこともがんばれたんだと思います。私も将来の夢を見つけて、それに向かってがんばりたいです。</p> <p>C：三木さん一人だけじゃなくて、たくさんの仲間がいたから「夢の超特急列車」ができるんだと思いました。クラスで何かをするときも、みんなで協力することが大事だと思いました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「指導者用デジタル教材」の「思考ツール」にある「クラゲチャート」を活用し、出された意見をまとめていく。また、出された意見どうしを関連づけ、価値理解を深める。
終末	<p>5. 本時の学習を振り返る。</p> <p>T：今日の学習で学んだことを振り返りましょう。</p>	

「指導者用デジタル教材」を活用したことで得られた効果

1. 気づきの即時的な可視化

教材を読みながら児童が心に残った部分に「マーカー」を引き、それを大型モニターに提示することで、全員の気づきを瞬時に教室に共有することができた。児童は友達の視点にふれることで、「自分はこう思ったけれど、こんな感じ方もあるんだ」と考えを広げることができた。さらに、「なぜその部分に線を引いたのか」「どうしてそのように感じたのか」を互いに説明し合うことで、一つの場面を多角的に捉えようとする姿が多く見られた。この過程を通じて、児童は相手の考えに共感したり、自分の考えを再構築したりすることができ、学級全体での学びの深まりにつながった。

2. 人物像への深い共感

「指導者用デジタル教材」の「考えるシート」を提示することによって、児童は三木さんの苦悩や決意を自分ごととして具体的にイメージすることができた。その結果、登場人物を単なる偉人として仰ぎ見るのではなく、「もし自分だったらどうするだろう」と置きかえて考えるようになった。授業中には、「三木さんが諦めなかったのは夢があったから」「仲間と協力したから」などの意見が出され、児童が登場人物の心情に寄り添いながら、自らの生活や将来に結びつけて語る姿が見られた。こうした姿は、「指導者用デジタル教材」による視覚的支援が、児童の共感や主体的な価値理解を後押しした結果だと考えられる。

3. 価値の広がりと定着

授業の展開の後半で、「指導者用デジタル教材」の「思考ツール」にある「クラゲチャート」を活用して意見を関連づけて整理したこと、一人一人の考えを点ではなく線として結びつけることができた。「夢をもつこと」「仲間と協力すること」「失敗しても諦めないこと」といった価値を関連づける過程で、理解がより深まった。また、このときに作成した図を印刷し教室に掲示することで、学びの成果が日常生活の中でも意識されるようになり、「自分も最後まで挑戦したい」「仲間と協力して取り組みたい」といった声が出され、実践意欲につながった。こうして学習の場で得られた気づきが、児童の行動や態度の変容に結びついた点に、「指導者用デジタル教材」活用の大きな効果が表れていた。